

# 関心と監視は 自分と世界と未来のため

2021/3/14  
おしどりマコ・ケン

## はじめに

原発事故が続いて10年です。

コロナ禍の緊急事態宣言は発令されたり解除されたりですが

原子力緊急事態宣言は、2011年3月11日から、ずっと発令中です。

誰かの意見を鵜呑みにせず、自分で情報を探して考えること、

何かの「報告書」を鵜呑みにせず、これはどういう情報を元に誰が作ったの？ということに留意すること、

これは、原発事故の問題だけでなく、その他の様々な社会の問題を、解決の方向に導くことでもあります。

ある「情報」が、「事実」と「筆者の意見」を区別して著してる？ 引用元を明示してる？ ということに気を配る方が増えれば、

世の中からフェイクニュース、と呼ばれるものは、少し減ることと思います。

また、自分で情報を探して、考えて、議論する、という一連の技術は、自分の人生に問題を抱えたときに、役立つ技術でもあります！

そして直接に関係がなくても、何かの問題に関心を持つ人、監視する人が世の中に増えること自体が

ちよつとずつ社会を変えていくことだと思います。

今日は足を運んで、耳を傾けくださりありがとうございます。

この配布資料には、今日の話に盛り込めなかったことを入れておきます。読み物としてもお使いください。

2021/2/8 配布  
規制庁

参考資料

東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所における  
原子力規制検査指摘事項概要  
(社員によるIDカード不正使用)

本来、IDが失直後には  
無効化する。(クレジットカードと同じ)  
免状防止

東京電力ホールディングス柏崎刈羽原子力発電所の発電所社員A（中央制御室勤務員）（以下、「社員A」という。）は、同人の出勤日であった令和2年9月20日（日）朝、社員専用の更衣室内で、自己の個人ロッカーに保管していたIDカードが見つからなかったにもかかわらず、防護管理グループ等への紛失の報告をせず、IDカードの無効化措置の機会を要失させた。さらに、社員Aは、発電所社員B（中央制御室勤務員）（以下、「社員B」という。）が同日は勤務日でないことを知っており、同人が個人ロッカーを無施錠にしていてIDカード管理が不徹底だったため、無断で同人のロッカーから社員BのIDカードを持ち出した。

ID保管  
がせん

社員Aは、周辺防護区域出入口での委託警備員からの氏名確認に対し、社員Bの氏名を申し述べた。委託警備員は社員Aの申告に対し、IDカードと社員Aの顔を複数回見比べ、疑念を抱きつつも、周辺防護区域への入域を許可した。<sup>整頓意味なし</sup>

防護区域出入口では、認証が複数回エラーとなり、社員警備員（以下、「防護直員C」という。）が、エラー警報を受信した。防護直員Cは、モニター越しに、登録顔写真を見比べるなどし、相違に疑念を抱いたものの、それ以上の身分確認をせず、周辺防護区域側の出入口扉を開いた（この時点で、Cは当該人物が社員Bであると認識した）。

さらに、防護直員Cは、出入管理業務に関する管理的地位にないのに、防護管理グループの管理的地位にある者の指示を仰ぐことなく、自らの判断で、社員Bを名乗る社員Aの識別情報の登録の必要性を認める判断をした。具体的には、防護直員Cは、委託警備員に対し、社員Bを名乗る社員Aの識別情報を社員BのIDカードに登録するよう指示し、その指示通りに行われた。なお、当時、柏崎刈羽原子力発電所には、識別情報登録ラ一発生に伴う登録に関する規定はなかった。

順番に  
身元確認  
変更

防護直員Cの指示通り、委託警備員が社員Aの識別情報を登録し、社員Aは、社員BのIDカードを使用して周辺防護区域出入口扉を通過した。その過程で、社員Aの顔に異変のあった別の委託警備員が違和感から声を掛けしたが、社員Aは社員Bの氏名を名乗った。

これら一連の不正により、社員Aは防護区域にある中央制御室まで入域するに至った。

社員Aは勤務が終了した同日の夜、社員専用の更衣室内の同人の個人ロッカーの奥に落ちていた自己のIDカードを発見した。社員BのIDカードは社員Bのロッカーに戻した。9月21日朝、社員Bが勤務のため防護区域に入域しようとしたところ、IDカードがエラーとなった。前日の社員BのIDカードの不具合を担当した防護直員Cが、1日後の再発生を不審に思い、社員Bから事情聴取し、社員Aの一連の行為が発覚するに至った。同日（9月21日）、柏崎刈羽原子力発電所防護管理グループは、原子力規制庁（本庁核セキュリティ部門）に報告した。

他人のID  
使うより、  
自分のロッカーより探した方が早い

以上

東電  
社員A → 未断使用、始末後無効化せず  
B → ID保管、無施錠  
防護直員C → 顔認証をせず  
身体認証正 階下へかえ

I D 不正使用問題 取材メモ

東京電力柏崎刈羽原発

## コロナ禍の中 取材、傍聴無しで 福島で行われた 「ご意見を伺う場」

## 漁連だけでなく、 様々な業種の組合長が 意見を述べました。

## 皆、汚染水海洋放出に 反対でした。 私の取材した限り。

## その中で、旅館ホテル組 合理事長の、小井戸さんの 発表されたものをご紹介 します。

令和二年四月六日  
福島県旅館ホテル生活衛生同業組合  
理事長 小井戸英典

わたしたち福島県内の旅館ホテル業界は、平成二十三年の原発事故に起因する放射能拡散の被害により、いまだに大きな経済的なダメージを受けていることはご理解をいただいているかと存じます。これは、実態がない事象を感情的に忌み嫌うことから発生する「風評被害」などでは断じてございません。放射能という人体に害のある物質が空气中に拡散し土壌などに蓄積した物理的事象に怯え忌避する人間の本能に由来するものであると我々は当初より考えています。

致死量に満たない毒入りリンゴだから食べても安心だと言われても、食指が動く者はほば居ないであろうことは、容易に想像が出来るでしょう。その安心の度合いは毒の希釈の濃淡で増減するのでしょうかけれども、どれだけ希釈しても不安をゼロに至らしめることが容易ではないことは、今の福島の実態が証明しています。福島県の旅館ホテル業界は、いまだに物理的要因による経済的な損害を受け続けている被害者であると認識いただけるよう冒頭にお願ひ申し上げます。

次に、当初は公表されていなかった多核種除去設備等処理水（以下、処理水という）の約8割にトリチウム以外の放射性物質が残存していた問題についてです。この事実が積極的に公表されていなかったことは、福島県民はもとより、国民全体の期待を裏切るものであると強く抗議するところです。しかしながら、このことで当組合として態度をことさら硬化させることは今後の対策実施に大きな影響を与えかねないこと、また、その残存の理由については、当初は敷地境界における被曝線量を下げることが重視した結果であったことなどの理由により、今後最終処分される全ての処理水については、トリチウム以外の放射性物質の告示濃度以下への浄化を確実に実行することを約していただくことで、問題視の対象から外したいと考えます。

ところで、処理水に残存するトリチウムについて、他の核種と同等のレベルまで除去するよう要請するべきとの意見も組合内に存在します。我々は科学知見の専門家ではないので具体的な反論は出来ませんが、これについては令和二年二月一日付け「多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会報告書（以下、報告書という）」に記載された「トリチウム(同位体)の分離技術について」の内容を信頼するのであれば、完全に分離することは困難であるとのことです。また、同報告書にある「国内外の原子力施設からのトリチウムの年間放出量について」を見る限り、既に諸外国では相当量のトリチウムが輩出されているという既成事実から推察すると、残存していても一定の安全は担保されているものと思慮できることなどの理由により、報告書に記載の数値等に齟齬がないことを前提として、トリチウム残存のままでの処理を肯定するものいたします。

さて、報告書にある処理水の最終処分案の概要を見る限り、いずれの案も多かれ少なかれ旅館ホテル業界を含む観光業へ直接影響を与えうると記述されているようでございます。そしてその処分とは、最終処分される場所が地中であるか海洋であるか或いは空中であるかの違いがあるだけで、いずれにしる福島県内に放出または投棄することを結果として想定しているようでございます。

そうであるならば、その処理水にはトリチウムなどの放射性物質が含まれていることは虚構ではなく事実であることから、この処理をする期間にもたらされる消費の落ち込みによって受ける旅館ホテルの損失は、風評被害ではなく故意の加害行為による損害であると我々は認識するところです。国はこの事実を認め、不法であるか否かを争うことを放棄し、妥当な範囲の損害を被る旅館ホテルに対する損失の補填などの措置を速やかに且つ処理水の処分が終了するまでの全期間にわたって講じることを求めるものです。この件に関し、個別の争いに持ち込まれた場合は体力のない事業所にとって事実上の破産命令となかねません。前例のない思いきった対処を切に願うものでございます。

この方針が定められることを期待したうえで処理水の具体的な処分方法についての意見を述べさせていただきます。

原子力発電の事故による観光等への被害が収束していない福島県内の状況下で、さらに放射能を撒き散らす行為についてはどうして許容できるものではない、というのが当業界の大勢を占める意見です。原発事故に起因する放射性廃棄物の最終処分について県外搬出を定めているように、処理水についても同じように県内での処理を回避すべきという最低限の配慮があつてしかるべきです。昨年十月に松井大阪市長が処理水の大阪湾での放出処理受入れを表明し、吉村大阪府知事がそれに同調したという事例があるので、他の都道府県で受け入れ先がない訳ではありません。受け入れ先を丁寧に探すのも国の責務でありましょう。

しかし意見書には敷地外移送に際しての時間やコスト、手間や法の壁があることを理由に、否定的な立場である記述となっています。それに加え、俯瞰してこの様子を見ますれば、福島の不要なものを他所に押しつける行為だと感じられるもので、福島県外の世論からすると、福島の評価を下げる行為であるとも感じます。旅館ホテルは全ての都道府県に存するものであり、福島のつらさを他所に押しつけることは信義に反します。よって、処理水については、至極残念ではございますが、福島県内に於いて処分するのが最も道義的な選択ではないかと思慮いたします。

そして、地層注入、地下埋設、海洋放出、水蒸気、水素放出の5案について、意見書では、技術的な見地から実績のある水蒸気放出及び海洋放出が現実的な選択肢であるとまとめられています。この二択で考察した場合、水蒸気による大気中への放出は、原発事故による放射能の拡散と同じように受け止められかねず、福島県内全域はもとより他県にまで影響が出てしまうことが想定されます。観光的な影響が比較的狭い地域に抑えられる海洋放出を選択することが、我々旅館ホテル業界にとっては総じて最も損失の少ない処分案であると考え、組合の総意として申し上げます。

尚、繰り返しになりますが、この海洋放出による直接的な影響は、風評被害ではなく実害であり、それはその処分が終了するまで続くものになります。海に人が集まることで成り立つ業態、あるいは海産物があることで成り立つ業態等々の、海が存することでその価値を生み出してきたホテル旅館につき、国はしっかりと個別に意見を聞き、補償などの対応を厳にとつていただくよう重ねてお願いするものです。

以上、福島県旅館ホテル生活衛生同業組合としての提言とさせていただきます。

# 切り捨てられた内部被ばく

事故直後、何を食べ、飲んでいたか、という内部被ばくは

ほとんど調査がなされていません。

個人の記憶による自己申告のみです。

けれど、私は取材で、恐らくかなりの汚染されたものを摂取した方々がおられることを知りました。

自己申告では、自分が何を食べたか分からないのです。

けど、何を提供したかを覚えている方はいます。

バチカンの教皇さまに手紙を書きたいと、相談を受け、私がお手伝いをしたことがあります。

全文は下記にあります。飯舘村の愛澤さんの告白の抜粋をお読みください。

<http://oshidori-makoken.com/?p=1667> 「原発事故についてのローマ教皇からの手紙」より



## Atoms Free for Peace カトリック 平和のための脱核部会

2015年3月25日 · 🌐

勝谷太治司教さまが、教皇謁見において、おしどりマコさんと飯舘村被災者による原発の不当性について述べた書簡を手渡したときの写真です。



## ローマ法王:原発は「バベルの塔」 現代文明のひずみ指摘

毎日新聞 2015年03月22日 09時00分(最終更新 03月22日 09時31分)



フランシスコ法王=A.P

拡大写真

### 関連記事

- ▶【保守派の抵抗が表面化 正念場迎えたバチカン改革】
- ▶ローマ法王が米議会合同会議で初の演説へ 9月訪米
- ▶<世界版・水戸黄門>国際政治で存在感高めるフランシスコ法王
- ▶「信仰守り250年、法王から賛辞」 長崎で枢機卿
- ▶「文明」を壊く蛮行…
- ▶<書評>『人類5万年 文明の興亡なぜ西洋が世界を支配しているのか』

【ローマ福島良典】フランシスコ・ローマ法王は20日、バチカン（ローマ法王庁）を公式訪問した日本の司教団と会見。東日本大震災の福島第1原発事故に関連し、人間のおごりと現代文明のひずみの一例として原発の閉塞に警鐘を鳴らした。法王が原発の安全性に言及するのは異例。

バチカンは会見の詳細を発表していないが、日本司教団によると、法王は「人間は神の定めた自然のおきてに逆らってはいけない」と指摘。原発を旧約聖書の「バベルの塔」になぞらえ「天に届く塔を造ろうとして、自らの破滅を招こうとしている」と表現し、「人間が主人公になって自然を破壊した結果の一つ」と述べたという。法王は「原発廃止」や「脱原発」には言及していないが、現代文明の抱える課題として懸念を表明した形だ。

また、法王は広島、長崎への原爆投下と第二次世界大戦終結から70年を迎えることに触れ、核兵器製造を「人類の悪行」と非難したという。日本司教団は法王が日本に向けた平和のメッセージを発表するよう依頼した。

法王は禁教下に信仰を死守した潜伏キリシタンを「指針」とたたえた。キリシタン大名の高山右近（1552～1615）がカトリックで「聖人」に次ぐ「福者」に認定される見通しで、法王は来年、日本で予定される列福式に「可能なら行きたい」と述べたという。



教皇さまからのお返事  
(マコ宛と、愛澤さん宛)

*To Ms Mako Oshidori*

I am deeply grateful for your letter sharing with me your experience of the Fukushima nuclear station disaster. I appreciate also your evident concern for all those affected by this tragedy, especially for the poor and the defenceless who all too often know the greatest suffering and injury in such an incident and its aftermath.

In your work as a journalist, may you continue to seek the truth and make known the needs and concerns of all in the community, thus contributing to a more just and peaceful society.

With the assurance of my prayers, I invoke upon you and your loved ones the divine blessings of healing and strength.

From the Vatican, 8 May 2015

*Francis*



*To Mr Takumi Aizawa*

I am deeply grateful that you wrote to me to share your experience of the Fukushima disaster. Your love and concern for the people of Iidate Village and those who sought refuge there from the earthquake and tsunami are very evident. This is true not only in the generous care you offered them during that tragedy, but also in your efforts to prevent such an accident from ever occurring again.

In the midst of this suffering, you responded to the needs of the people with the few resources at your disposal. May you find peace in recalling that your service to those in the shelter at that time was motivated by your compassion for them, and was in response to their immediate needs.

With the assurance of my prayers for you and for all those affected by the Fukushima nuclear power station accident, I invoke the divine blessings of healing and strength.

From the Vatican, 8 May 2015

*Francis*

## 愛澤さんから教皇へのお手紙の抜粋

私は福島県の飯舘村の愛澤卓見といいます。飯舘村は今回の原発事故で最も汚染された地区です。また、最も避難が遅れた地区でもあります。この地区で起きたことをお知らせしたいのです。

この話は私自身の罪の告白にもなります。事故直後、原発から離れた山村である飯舘村には津波を逃れた人々が避難してきました。また、原発事故を恐れた人々も避難してきました。人々は、いくつかの山を隔てた飯舘村であれば安全だと考えたのです。当時、私は村の小学校で働いていました。その体育館は村で最も大きな(彼らのための)避難所となりました。13日の開設から18日の閉鎖までの期間、避難所に留まり働いていました。2011年の3月は季節外れの雪が降る寒い日々でした。体育館の暖房は十分ではありません。避難してきた方々にはお年寄も多く、寒さと高血圧を原因とした脳溢血や心筋梗塞が心配でした。薬もありません。私たちにできることは水分を多く取らせることだけでした。しかし、その後、飯舘村の水道水が放射性物質で汚染されていたことが明らかになったのです。

飯舘村に避難指示が出て以降、私は自分たち飯舘村の住民になにが起きたのかを調べました。いくつかの記録を調べていく中で、飯舘村の「井戸水を使っていた家庭」より避難所に来ていた人々の被曝量が大きいことに気づきました。

私は沈黙してしまいました。政府は飯舘村の住民に対してさえ、「健康被害は発生しない」というスタンスを取っています。科学者は被曝による健康被害を危惧する人々を「愚かである」と罵ります。事実を口にすることは、今現在、幸せに生活している当時の避難者の人生に影を落とすだけかもしれないのです。

私はカトリック信者ではありませんが、神に祈ります。どうか、私の罪を罰してください。沈黙していたのは私です。彼らは水道水の汚染が深刻だった可能性を知らされていないのです。知っていたのは私です。

## 取り組みの状況

◆ 1～3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月、約15℃～約20℃※1で推移しています。また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく※2、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。

※1 号機や温度計の位置により多少異なります。

※2 1～4号機原子炉建屋からの放出による被ばく線量への影響は、2021年1月の評価では敷地境界で年間0.00004シーベルト未満です。

なお、自然放射線による被ばく線量は年間の2.1ミリシーベルト(日本平均)です。

### 2月13日に発生した地震による外部への影響なし

2月13日に福島県沖を震源とする地震(マグニチュード7.3)が発生しました。

点検の結果、5、6号機及び共用の使用済燃料プール付近において、プール水が溢水したと思われる水溜り(計3,000cc程度)や5,6号機の滞留水等を貯留しているフランジタンクから漏えいを確認しました。また、ガレキを入れたコンテナの一部の転倒や多核種除去設備サンプルタンク/処理タンクに位置すれなどを確認しましたが、いずれも外部への影響がないことを確認しております。

なお、地震発生時は監視データを基に環境への影響がないことを確認し、すぐに情報発信するとともに、その後、点検結果に基づき順次、情報発信しております。引き続き安全の確保に努め、迅速かつ透明性の高い情報発信に努めてまいります。

### 1・3号機のPCV水位低下を確認 外部への影響はなく、慎重に監視継続

原子炉格納容器(以下、PCV)水位が、1号機は2月15日以降、3号機は2月17日以降より低下傾向にあることを確認しました。

また、水位の低下により、2月21日には、1号機のPCV内の圧力が注水停止試験時と同様に低下したことを確認しております。本事故により、敷地境界のモニタリングポストやダストモニタ等に有意な変動はなく、外部への影響はありません。

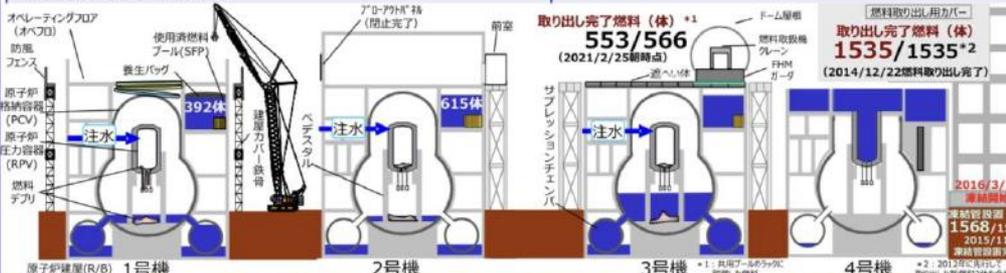
原子炉への注水は適切に行われていることを確認しておりますが、水位低下の要因として、2月13日に発生した地震によるPCV損傷部の状況変化が考えられ、引き続き慎重に監視してまいります。

### D排水路新設で効果的に豪雨リスク解消へ 2022年度台風シーズン前に機能発揮目指す

近年国内で頻発している大規模な降雨に備えD排水路の新設を計画しております。

豪雨時における敷地内の施設への影響を把握するため、浸水シミュレーションを実施した結果、1～4号機建屋周辺の浸水は、概ね解消されることが確認されました。

2021年2月から準備工事を開始しております。2022年度の台風シーズン前に迄に整備完了を目指してまいります。

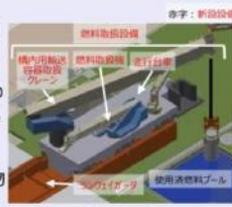


### 2号機燃料取り出しに向けた検討状況及び作業の進捗について

2024～2026年度の燃料取り出し開始に向け、燃料取扱設備等の設備の設計を進めております。

また、原子炉建屋最上階の作業環境整備として、現在、残置物作業後の線量調査を実施し、さらなる線量低減策を検討してまいります。

なお、原子力規制委員会の調査で、格納容器上部の蓋に大量の放射性物質の付着が具体的に確認されたことについては、十分に配慮しながら、燃料取り出しに向け準備を進めてまいります。



### 3号機の全ての燃料が吊り上がることを確認 取り出し作業完了へ向け順調に進捗 ~553体/566体~

燃料上部のガレキ除去等を実施し改めて吊り上げ試験を実施した結果、使用済燃料プールに残る全ての燃料について、吊り上げが可能であることを確認しました。

2月3日より、ハンドル変形燃料(合計18体)の取り出しを開始し、これまでに553体の取り出しを完了しております。

取り出し作業完了に向けて、引き続き安全第一で作業を進めてまいります。

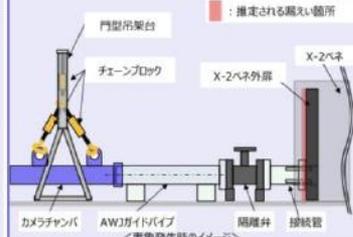


### 1号機PCV内干渉物調査準備における圧力低下事象の原因を究明

1月21日に干渉物調査用のカメラ装置を挿入するための作業を実施したところ、原子炉格納容器内圧力が低下する事象が発生しました。

原因は、新規カメラ装置の取付作業により負荷を加えたことにより、X-2ベネ外屏シール部から漏れが発生したものと推定しています。

対策として、新規カメラ装置取付作業時の負荷低減、当該シール部の補強を行ったうえで干渉物調査を進めてまいります。



# さいごに、では無くて、まだまだ、つづく！！

私は、今、コロナ禍の取材もしています。  
2020年1月に厚労省とWHOに記者登録したときは、まだ「新型肺炎」と呼ばれていました。

いつだって未来は予想つきませんが、  
映画の1シーンのような原発事故が日本で起こることも、  
世界中がウィルスの感染におびえることも、想像できませんでした。

過去の「密な」写真を見ると、今はパラレルワールドにいるようですが  
価値観と生活がひっくり返るような出来事はいつだって突然おこります。  
いや、出来事は「突然」起こるのですが、それにどれくらい対処できるかは、普段が、私たち全員が作るのだと思います。

日本の原発事故を見て、世界で一番初めに脱原発に政策を変えたドイツを何度も取材して  
「でも、ドイツが自国で原発事故がおこったらどう対応するのだろうか？」と思っていました。  
コロナ対策で、ドイツは世界の中で群を抜いている国の一つです。

コロナ禍は、世界一斉社会テストのようなもので、いろいろなものをあぶりだしました。

コロナ対策がうまくいってる国に共通していることは  
検査・測定・調査して調べること、それを共有すること、情報公開、議論の可視化、決定のプロセスを公開すること。

判断の過程が公開されることで、私たちはその決定を支持するかどうか判断できます。  
決定がおかしければ、どの段階で、どの情報、どの意見が支持できないのかも指摘できます。

原発事故もコロナ禍も、十分に調べられず、検査もデータも不十分、  
議論は可視化されず、突然出される論拠のわからない決定に、私たちは振り回され、踏みにじられます。  
いつまでこれを続けるの??

まず、私たちが変わらしましょう。  
いろいろなことに関心を持ち、監視をし、自分で調べて考えて話し合っていきましょう！ まずは半径5mから。



おしどり ホームページ <https://www.oshidorimako.page/>

OSHIDORI Mako&Ken Portal / おしどりポータルサイト <http://oshidori-makoken.com/>

おしどりマコ&ケンの「脱ってみる？」 <http://www.magazine9.jp/category/article/oshidori/>

おしどりマコ・ケンの脱ってみる？ デイリー <http://daily.magazine9.jp/m9/oshidori/>

twitter

おしどりマコ @makomelo

おしどり♂ケン @oshidori\_ken